

清政

皇后陛下御歌
父祖の地と
君がのらしし
京の地に
しだれ桜の
幼木を植う



神道政治連盟京都府本部会報
平成18年6月19日発行(年2回発行)

記念式典
基調講演
シンポジウム
ディスカッション
事務局からの活動報告
シンポジスト/コーディネーター紹介

40



神道政治連盟京都府本部創立三十五周年・京都府敬神婦人連合会結成五十周年

記念式典・シンポジウム

はじめに

遡ること三十五年前の昭和四十五年十一月は、作家三島由紀夫氏が政治的に崩壊していく日本の行く末を憂い、市谷駐屯地で大演説の後自決された年である。

その頃の日本は敗戦という大きな傷が漸く癒えはじめ、物質的な豊かさや幸せと信じるようになった。

そのような高度経済成長の影で、人々の心深くに存在する悠久より培われた日本人の伝統的文化、皇室尊厳護持の心をはじめ、英霊への感謝



の気持ちまでもが色褪せつつあった。そうした中、神道政治連盟京都府本部が結成され、今日までの三十五年の長きに渡り、諸先輩方は、皇室尊厳護持として一世一元化・元号法制化・朝儀の伝統復活運動。

また国家護持運動においては国旗国歌法制化。神社護持継承活動として神札・御籤の課税阻止などをはじめ数々の功績を上げてこられた。折しも大東亜戦争終結六十周年、日露戦争戦勝百周年。

我々はこの神道政治連盟京都府本部創立三十五年の佳節を機に、主権国家のあり方を見つめ直し、北朝鮮による拉致・核開発。中国・韓国による言われない首相靖國神社参拝批判の問題、領海・領土侵犯、ロシアよりの北方四島の一括返還。

更には戦後教育においての日本人の精神的墮落を戒めるべく、正しい歴史教科書採択を皮切りに現在の教育基本法改正により「愛国心」「宗教的情操」の涵養の明記と「不当な支配」の削除。

これら問題の一つひとつを、日本国民であることに誇りを持ち、堅い決意を胸に刻み一歩ずつ着実に踏み固めて行きたい。

心の教育・女性フォーラム
第五回 教育シンポジウム

共催 神道政治連盟京都府本部 京都府敬神婦人連合会

基調講演
「食育のすすめ」

大切なものを失った日本人
 講師 服部 幸應 先生



神道政治連盟京都府本部創立三十五周年記念
 京都府敬神婦人連合会結成五十周年記念
 心の教育・女性フォーラム
第5回 教育シンポジウム

教育とは何か——真の日本人を育むために

日時 平成十七年十二月七日(水)
 場所 ホテルグランヴィア京都

開催趣旨

家庭教育をしっかりとしていこう、
 そして地域の教育力を守っていこう、
 という観点から「心の教育・女性フォーラム」が開催され、今回第五回目を迎える。
 折しも六月に食育基本法が衆議院・参議院の本会議を通り、これからは、「知育・徳育・体育」という三つの育に加えて「食育」が大きな柱となる。本講演の趣旨は、この「食育」を通じての人格教育、心身ともに健全な日本人を育てていくということにある。

Ⅰ 基調講演

「食育のすすめ」
 ——大切なものを失った日本人——

服部幸應 先生

服部先生は食育をテーマに活動されており、栄養士・調理師学校である服部学院を経営。人は十八才になったら子供の頃からの食習慣は変えられないという。将来「食」の指導をしていく立場にある自らの学院の生徒に食生活アンケートを取ったところ、理想的な献立は書けるにも関わらず現実には朝食抜きやダイエットをしている。頭で判っているも行動に出ない。子供のときからの食習慣はもとより、すべての習慣が大事なのだと。

以下先生の基調講演を要約した。

私は世界二十カ国の高校生を対象に規範意識の調査をしました。「先生や親を尊敬しますか」という問いに対し「はい」と答えた学生の割合は、アメリカ・EU・中国などは80%を上回り、隣の韓国はトップでした。50%を切る国は危ないといわれる中、日本は僅か21%で世界最低で、更に悪化の心配があります。

アメリカはベトナム戦争当時50%ま



で落ち、学校では暴力が蔓延り、小学三年の女の子がビストルで先生の頭を撃つ事件まで起きました。

その四十年前のアメリカと同じことが今まさに日本で起こりつつあるので。アメリカは規範意識を大切な目安とし、まず家庭から直そうと両親が同じ目線で子供を育てる努力をし、親が一言「いい子だね」と言ってあげることから始めました。

しかし日本では「いい子ね」と母親が言っても、父親はテレビを見て知らん顔です。ペットの子犬でさえもまず家族構成を見て、自分が何番目かを本能的に決めます。

世界中で親の尊敬度が50%を切っているのは日本だけでたった25.2%です。親の四人に一人しか尊敬をされていません。子供が悪いことをすると父親が叩き、母親はそれをホールドしてあげ



る。そのとき「何故あなたは叩かれたか解る？こういう悪いことをしたからよ」と言い聞かせる。それが本当の両親が同じ目線に立つての子育てです。

日本は躰の仕方が中途半端で、それが幼い子供にも伝わるのです。

ただ一つ大事なのは、子供を叩くリミットは八歳迄です。脳細胞の神経が八歳から急激に発達し、好奇心を持ちはじめ、十歳で完成されます。だから子供が疑問を持つ前に人格はある程度形づくるときで、八歳以降になっても叩き続けると子供が「切れる」事件が起きます。ですからバランスというのはとても大事なのです。

しかしもう一つ「切れる」事件の大きな要因として糖分の取り過ぎがあります。糖分をとり過ぎると、血糖値を抑えようとすい臓が異常に働いてイン

シュリンというホルモンを出します。「パブロフの犬」の実験は、犬にえさを見せると涎が出るという条件反射のテストですが、人間も梅干を見ると涎が出るように、長い年月清涼飲料水等を取り続けると、ボトルを見ただけでインシュリンが出て血糖値が下がり、頭に血が上らず思考能力が止まります。ところが人間はよくできていて、今度は頭に血を上げようとアドレナリンというホルモンが出る。だから思考できない段階で体は元気になってしま

います。この間で事件が起きているのではないかという研究がされています。当然野菜・果物を取らない偏った食習慣にも問題はあります。

よく耳にする「こしょく」といわれるものは五つあります。「孤食・個食・子食・小食・粉食」。中でも「孤食」は三十年程前から言われ始め、同じ屋根の下の家族がバラバラの時間にバラバラの物を食べるという一緒に団欒できない現象をいいます。最近はその教育で、土曜日が休みです。家族団欒の機会は増えたのですが、覗いて見ると家族みんなバラバラの食事。親が子供に好きなものしか食べさせません。やはり同じものを食べ、みんなで突付くから共通の話題が出てきます。たとえ子供の嫌いなものが出て、

「もう少ししたら食べるようになるわね」などと話すキッカケができます。食べ物の好き嫌いは、すべてに関してのわがままを成長させてしまうことにつながります。

私は文部科学省に小・中学校の指導要領の中に食育の時間を取り入れ、知育・徳育・体育・食育とすることを願っています。知育にも体育にも栄養は必要で、徳育にも食はつながりません。学校教育では家族構成の中でどうしても補えない部分をきちんとして貰いたい。

食育の一つ目は、どんなものを食べたら危険かということの子供の頃からきちんと教え、自分で食材を選べる能力を身につけさせる。

二つ目は、躰の延長線上で箸を正しく使わせる。今年入った小学生のなんと88%がまともに箸を持ってません。これがすべてを象徴しているような気がします。子供には八歳頃迄にはきちんとした食生活と躰をして頂きたい。十八歳位になるともう食習慣を変えられませんが。

二十歳前後の20%の若者の骨が七十、八十代の骨となっている。子供の時から食習慣は親の責任です。二十歳までは是非責任を持って指導して頂きたい。ところが現実には親が指導でき

ず、その親の食育をこれからは国を挙げてすることにしようです。

三つ目は食糧問題です。日本はカロリーベースで食糧自給率が四十年前は73%でしたが現在は40%しかありません。日本人の食が洋食系になったため、輸入せざるを得なかったからです。嘗て千三百万人いた農業関係者が今は三百二十万人で、みんな工業化の方に走ってしまった。そのかわり日本は豊かになりました。

その食料を日本は残飯として毎年大量に捨てています。地球の人口六十億人の内、衣食住が満たされているのはわずか8%で、日本はその中です。地球上の十二億人が水欠乏症で、二十億人がまともな食生活をしていません。本場に栄養失調の人が八億四千二百万人もいます。そして毎年三万五千人が餓死しています。

日本人は、日本人が持っている「もつたいない」という素晴らしい言葉を忘れていきます。お米一粒でも大切にしようということをお教えることが食育です。こういったことを学校の段階できちんと教えて頂く。日本を再生させるためにはまさに食を通じての人間教育をしていかなければ、このままではどうなるのかなと私は思っています。

心の教育・女性フォーラム
第五回 教育シンポジウム

共催 神道政治連盟京都府本部 京都府敬神婦人連合会

心の教育と食



II シンポジウム

シンポジスト

服部幸應氏
富田和巳氏
有村治子氏

コーディネーター

石川水穂氏



石川水穂氏

石川 それではデイスカッションに移りたいと思います。服部先生から大変貴重な基調講演、食を通じた家庭教育の大切さをお話いただきました。その感想を含めて富田先生、有村先生からお聞きしたいと思います。富田先生よろしくお願ひします。

富田 本当に食が崩壊する社会です。「オレンジページ」では主婦の手抜きが

主題になっています。働くお母さんが増えて、だんだん日本の家庭で個食というのが一般化してきています。食品の内容はコレステロールを抑えることばかり考え、いかに食べるかということが余り考えられていません。お母さんがつくる食事には愛情が含まれているのです。だから愛情が胃や消化管を通じて子供に伝わるのです。私たちは最初にお母さんのおっぱいをもらって育っていくのですから、食事ということこそ心の教育になるのですが、それを今は忘れていきます。

私たちは体を維持して命を保つために、他の動植物が営々と築いていた命を奪い、肉体や子孫を奪うという矛盾する行為をしています。食べるということは極めて短絡的な行為なのです。

食事は五感のうち四感まで使います。そして食事中にはよく音楽が流れ、結局聴覚も使います。だから感覚というのは非常に大事なのです。

そして感覚の中では特に触覚が大事です。他の感覚は口や耳や鼻や舌にしかなく一方的に見聞きし味わうのですが、触覚だけは触る・触られるという受動と能動とが両方に起こります。これこそ人間の感情の基本です。食事にはこの相手と互いに分かち合う感覚があるのです。赤ちゃんは最初にお母さんのおっぱいの温かさを感じ、互いに触れ合う。また、友達が失敗したときに「頑張れよ」と肩を

叩くのは、相手に好感を持っている気持ちの現れです。

体、感覚そして心。心では情緒とか素敵なことを考える。一番基本となるのは、我々は肉体から成り立っている物質で、その起源は宇宙です。地球ができて命が芽生え、生物が進化し人間になった。最初に肉体と命が生まれ、そこに感覚や心が芽生えます。心や命の大切さを知ると言いますが、実はその前の段階を含まなくてはなりません。そしてその一つひとつが充実していなければ次が出てこないのです。私たちは心が一番高級だと思っていますが、その高級なものも下のものが充実してこそ上が出てきます。上のものが下のものを支配するという相互依存です。

人間は、受胎した瞬間から自然界に肉体和命を持った身体として存在します。「身体」と書くことには非常に意味があるのです。まず赤ちゃんは肉体和命と感覚を持って生まれます。赤ちゃんはお腹が空いて泣きます。泣くとお母さんがおっぱいを与えてくれる。するとその触覚を通して赤ちゃんが満足する。この心よりの感覚は情緒です。人間の心を「知情意」で表すと、そのうちの「情」が芽生えます。つまりお母さんのおっぱいを与えることにより触覚を通して人間に心が芽生えるのです。

今、学校で心の教育、と言われていま



有村治子氏



富田和巳氏



服部幸應氏

すが、そんなことを言う前に、まずお母さんがおっぱいをあげることが如何に大事かを教えないといけません。なのに、フェミニズムだのジェンダーフリーだの、お母さんは育児に関わるな、などと学校教育の場でやって、心の教育、命の大切さを教えるなど全くナンセンスです。最近では小児科医も賛同することが多く困ります。

赤ちゃんはまず情緒が芽生えます。赤ちゃんは非常に好奇心が強い。好奇心とは「知」です。「知」は知覚、聴覚、触觉に通じますから感覚が大事です。こうして「情」の上に「知」が出現します。「意」というのは意欲的にこういうものを伸ばそうという気持ちです。体がピラミッドだとすると、感覚が地面で、その上に「知情意」が乗る。これで人は健全に育つのです。しかしこれを損ねると心身症や拒食症などの重要な要素になります。人間は賢くなりすぎたのです。この重たい脳を支えるために、感覚や情緒を大事にしなくてはなりません。だからきちんと育っていないといけません。それをフェミニズム、ジェンダーフリーはしないでおこうと言っています。これは国を滅ぼす思考です。

この頃の日本の子供の躰は間違っています。虐待すると子供には恐怖や不快な感覚が芽生えます。少し大きくなりテレビゲームやドラマを見ます。そして

インターネットで不要な知識を得る。子供は「意」が何処を向いてよいか判らなくなり、凶暴性を持ったり、無気力になったりするので。

先進国には不自然さがあります。例えばスーパーでは食品にカロリー表示がされています。こんなにたくさん栄養があるというのでなく、こんなにカロリーが少ないから食べてくださいというのです。ところが誰もそれをおかしいとは思っていません。アメリカなどはハンバーガーやポテトチップスにケチャップをかけて特大のコーラと一緒に流し込む一方、痩せるために必死の努力をしています。先進国の最先端を行くアメリカがこうですから、我々はよく考えないといけません。電気製品を修理に出すと、大抵買いかえた方が得ですよという。せっかくだけ大事に使おうと思っているのに、それをやめさせるような仕組みになっています。これは本当に不自然です。

しかしもとを正せばアフリカの好奇心の旺盛なサル種族が森をあとにして、不自然にも乾燥地帯で生きようとして人間に進化したのです。自然から遠ざかることが人間の歴史だというのが今まででした。ヒポクラテスが昔「人間は自然から遠ざかるほど病気に近づくと」と言いました。まさに名言です。どんどん進歩してきた我々には不自然さが目に見えて出てきたわけです。

日本は非常に自然を愛する国民で、庭園は植木があり築山から水が流れていきます。京都は特に名苑へ行くと、借景といって自然の風景を取り入れてあります。日本人は非常に自然との親和性があり、神道のような原始的な宗教がそのまま残っているのです。これに対して西洋は、自然制圧志向がすごく大きい。西洋の庭園は幾何学模様の花や芝生を植えたり、水を下から上に汲み上げる噴水があつたりとても不自然です。

現在の先進国で本当に自然思想を持っているのは日本人だけです。その日本人でさえも自分たちの伝統をなくそうとしている。食事も、日本食は非常によかった。昔は食べないとい死んだのですが、現代は食べたら死ぬ時代なのです。カロリーやコレステロールで生活習慣病がどんどん増えています。

また、古きよき時代の慎ましき、「もつたいたい」とか「恥を知る」「物を大切にする」などの言葉が消えつつあります。「お百姓さんに感謝しましょう」は死語です。しかし最近になり漸くファーストフードに対するスローフードを見直す傾向がでてきて、食べることを考える時代になってきています。是非よく考えて子供の教育をしていただきたいというのが、子供の心を診ている小児科医からの思いです。



石川 どうもありがとうございます。では有村先生、お願いいたします。

有村 私も健全な精神を育てていくのには、食育は原点であるという共通の思いを持っており、お二人のお話をうかがい食育を含めたこういう問題はすぐれて社会問題であるなど痛感しました。この問題のしわ寄せがいくのが食育を含む教育です。阻止せずに放っておくと、数年後十数年後に、日本社会や子供たちに大きな問題提起を突きつける事件が起きます。社会問題と教育問題は密接した問題で、日本を少しでもよくしたいと思うなら、教育に着手していくべきだと痛感します。教育が国民性を作り、その教育を受けた人達が物事を形成していき、それに引つ張られる形で経済・行政・政治が動いていく。まさにその世が選んだリーダーによって、外交政策や安全保障政策、家族政策、食育政策までが変わってきます。服部先生が何年も前から、未来の総理である厚生大臣当時の小泉首相の耳に、食育ということをもPRされたからこそ今、食育が国を動かす国民のものになってきました。どんな教育をするかはどんな世論や国家をつくるのかに直結する問題です。そして次世代の子供にどんな教育や食育をするか、私たち自身の価値観や人生に向き合う哲学が試されています。

私は食育というと檜玉に上がるマクドナルドに勤務していました。日本にマクドナルドが来たのは、ちょうど神道政治連盟京都府本部が産声を上げ、私が生まれた昭和四十五年でした。そのときに、マクドナルドの藤田会長は「私達はきつねうどんで育った世代だ。いきなりハンバーガーは食べられないし生活習慣にならない。マクドナルドが日本に根づき成功するかどうか決まるのは三十年後になるだろう」といいました。つまりマクドナルドで育った子供たちが大人になって、子供を連れてきてくれたら、そこではじめてビジネスが成功したといえる。三十年スパンで考えなくてはいけないということなんです。まさに日本で、きつねうどんを食してきた世代だからこそ言えたことだと思えます。

「三つ子の魂、百まで」というのは、科学的にも正しいことです。先ほど服部先生がおっしゃった、「もつたない」という言葉はすごい思想があるなど政治家として思っています。「大変ありがたい」、「申しわけない」、中でも本当に畏敬の念を持った「もつたない」という言葉は、日本の美しい風土から生まれた本当にいい言葉だなと改めて思っています。私たちが忘れかけようとしている、でも大事にしていかななくてはいけない、「足るを知る」という日本民族の知恵、それは今だからこそ生かさなくてははいけ



有村治子氏

ない概念であり、生活の哲学だと思いません。

民族として何を食べてきたのかというのが、私たち今の民族の姿になる。個々の人間として何をしてきたのか、何を摂取してきたのかということと考えるときに、日本人として、この海洋国家の島国に住む民族として、何を食べ、何を学び、何を次の世代に渡していくのか。今日は本当におもしろそうなシンポジウムになりそうで楽しみにしております。



III デイスカッション

石川 服部先生にお聞きします。「食育」という言葉は西洋で考えられ、食育基本法が今年の夏に成立しました。教育は今まで知育・徳育・体育の三本柱でした。プラス食育が必要になった背景は何でしょうか。

服部 実は江戸期から明治にかけて「食育」という言葉は使われていて、村井弦齋という人が知育・徳育・体育・才育・食育と言いました。才能の「才」まで入っていたようです。

現在は核家族が進み夫婦共稼ぎになり、親子の接触の機会が少なくなりまして、昔は公園で年の違う子供達が誘い合い、かくれんぼや鬼ごっこをしたもので、この遊びが消えていっているようです。年齢の違う子供同士が遊ぶという経験が大切なのは、何か問題が起きたとき年上役が仕切るのを見ながら学ぶからで、これは学校や家庭で教えられない非常に重要な体験です。最近の子供は家にもってEメールやテレビゲームをしたり、塾に通ったりで、これが今はないのです。夕食の時間までに帰らず怒られた

あの体験を、日本人はもう一度してほしいと思います。

アフリカである部族の酋長が「一人の子供を育てるのに村中の人の協力が必要だ」と言っていました。これは今の日本が忘れていた言葉、行為ではないでしょうか。

日本も昔は近所で勝手に柿などもいだらカミナリ親父に叱られたものです。この頃は自分の子供さえもともに叱れない親がいる。叱るのではなく怒って興奮状態になるのです。そうすると子供は客観的に眺めながら何時か静まるだろうと思うようになるのです。

私は様々な経験から、家庭、学校、地域社会に食育をしなければならぬと思います。安全・安心な食物をつくること、生産者のためにも、食品を選ぶ能力を持つという意味で消費者のためにも必要です。

石川 大人が子供を叱れないという。この叱るというのは教育の一つの重要な項目ではないかと思えます。富田先生いかがでしょうか。

富田 このごろ日本の社会は豊かでやさしさが溢れ、迎合の時代になっています。育児書でも優しく褒めて育てようとなります。確かに褒めることは子供の自尊心を養うのに大事ですが、叱るという教育

ができない親がたくさんいます。叱るつもりが今は怒りが先に出てくる。それは親の精神年齢のレベルが低くなり子供と対等になっているからです。日本の民主主義教育の欠点は平等です。親子が平等だと叱ることが喧嘩になって、子供が知らないふりをする。

戦前までは日本の教育は非常によかった。経済的に貧しい時代は優しく育てても自然に環境が厳しさを与えてくれました。子供が家の手伝いをする中で自然により子育てができた。優しさが迎合するのを学校教育から根本的に変えなくてはいけない。公立小学校には教壇がない。先生が一段高い所に立たないと教育はできません。



石川 ありがとうございます。有村先生にお聞きしたいのですが、子育てをしながら政治活動をされるのは大変ですが、どんな風にお子さんを育てていらっしゃるのですか？

有村 私の子育て成功の一つの物差しは、私が大事にしている価値観を、子供を通して次の世代の孫が共有してくれることです。時代の流れの中で、何を是とし、何を悪として戒め子供に伝えるか。時代を経ても残り続ける言動を孫の世代に残し、子供がその価値観を共有し納得して次の子孫に伝えてこそ顕在化することができます。私は出産して母親の遅しき、心身の変化を感じながら、働いているからこそ母乳にこだわりました。冷凍母乳というのが二十年ぐらい前からあります。子供との接触が持てない母親が、冷凍ながら母乳を保育園や自宅に送ることで子供とつながっていく。これはベストな方法ではありません。しかし、乳業会社がどれだけ技術を駆使して、栄養学的に人工乳を母乳と同じに作れても、唯一まねできないのが免疫だそう。わが娘は結果的に保育園で一番長く母乳を飲み続けた、保育園を休まない最も強い赤ちゃんでした。体の中の生きた知恵である母乳、体のサイクルの中で一番いい物が次の世代に伝わっていくのを感じました。

石川 ありがとうございます。有村先生から母乳ということが出ました。それをキーワードに、服部先生お願いします。

服部 私も子育てに関する研究をやつてきて、何でアレルギー疾患が増えているのか疑問に思いました。今は日本人の三人に一人です。原因の約七割はシックハウスといつて化学物質、またカビやタニ、スギ花粉などです。しかし残り三割は抗体反応を見ると食品です。厚生労働省も2000年に二十四品目のアレルギーを持った食品を指定しました。これは皆さんの召し上がるほとんどのものです。その中で2002年に五品目の食品が、商品加工食品と包装に明記義務ができました。牛乳、卵、小麦粉、ビーナッツ、そば粉です。残りの十九品目は、牛肉、豚肉、鶏肉をはじめ大豆、豆腐も食べられない子供がいます。後は果物、毎年増えてきて、最近バナナも入りました。

母子手帳の離乳食を与える時期は五カ月目です。ところがどうも腸が完成するのが十二カ月かかるというのがわかってきました。腸の形ができ上がる前に先ほどの品目の食品が腹の中に入ると抗体反応が起きてしまい、アレルギーになるのです。人により全部が悪いとは限らないし、体の酵素で対抗できるものもありますが、八割方アレルギーが出ます。私は子供のとき、青い背の魚を食べた

後痒くなったのですが、この年になるともう出ません。今のお子さんは体が欧米型になってしまい、子供のとき出たら二十歳過ぎても直らない。アレルギー疾患の可能性のある芽を摘むためにも母乳は昔のように十二カ月は飲ませましょう。母乳に免疫があり、五日間の初乳には特に免疫物質が普段の十倍入っています。

アレルギー疾患の他にもう一つ。小学生の男の子四割、女の子六割が、朝と夕方で体温が違います。我々は恒温動物で常に一定の体温でした。ところがこの頃子供たちは変温動物化しているのです。変温動物はトカゲやヘビや爬虫類です。小学生の体温が登校時は三十五度なの。下校時は三十七度以上なのです。だから学校で立っていられず、学校に行つた途端に保健室に予約が入る。こういう子供がすくく増えていきます。

なぜ体温が上がるのか？ スプーンで離乳食をゴクンと飲むと一緒に空気を飲み込む。これがどうも危ないということがわかってきた。私達は普段鼻で息をします。鼻には繊毛が生えていて、ここに雑菌やごみがついて鼻水として出るので。こんな自然のフィルターはありません。ところが空気を直接ゴクンと飲ませてしまうわけです。これがどうも温度コントロールに関係があるようで今調べています。

石川 お母さんがおっぱいを飲ませることが子供の触覚ということをおっしゃいました。富田先生、お願いします。

富田 今ほとんどの赤ちゃんは病院で産まれますが、果たしてよいのかという問題があります。母乳の出ないお母さんです。赤ちゃんが産まれて数時間後に母乳は母乳のためのホルモンが出ます。赤ちゃんには生まれながら吸舌反射という吸いつく能力があります。赤ちゃんは産まれた途端におっぱいのところへ行きます。赤ちゃんがおっぱいを吸うと、母乳が数時間後に出るようになります。だから普通は出るのです。ところが病院できれいに産むと、その大切な時間に沐浴をしてしまうのです。欧米ではカンガルー療法といい、産婆さんが取り上げて赤ちゃんをすぐ保育器に入れず、お母さんに抱かせる。するとおっぱいが出るのです。赤ちゃんがおっぱいに触れることはすごく大事です。だからやはり私たちが伝統的に持っている文化なり、子育てを大切に直直すことが必要だと考えます。

石川 服部先生は食育の上で朝食の摂取が大切だというお話をお願いします。

服部 朝食を食べない子供たちがいます。これは上にいくほど高くなつていき、



二十〜三十代は30%ほどです。原因は夜更し、朝ギリギリまで寝るからです。朝食が何故必要かは小学校四・五年生なら論理的に話すと判ります。夜食べて余ったエネルギーは60グラム、グリコーゲンという形で肝臓の筋肉にため込まれます。それが少しずつ分解してブドウ糖に変わり我々の体が動くのです。これを寝ている間に一時間に5グラムずつ消費し、八時間後に40グラムなくなります。残りは通勤・通学でまず10グラム消費。席に着いて、授業や仕事が始まる。特に子供は代謝がよいので残りの10グラムは十時頃まで持ちません。

脳を動かすのにブドウ糖以外のエネルギーは使いません。これがなくなってしまうわけです。お昼ごろ頭はボーっとしても、体操の時間だとしなければいけない。ブドウ糖がないはずなのに活性化す

るわけです。実はブドウ糖がなくなると中性脂肪がエネルギーになります。脳を動かすことはできません。勉強とか仕事をするのに、朝食を食べる・食べないで15%成績が違うのは事実です。だから朝食はとても大切です。

先ほど変温動物化していると言いました。朝食をきちんと取ると温度コントロールもできます。是非朝食だけはきちんと食べさせて、子供のときから食を習慣づけてあげてください。

石川 どうもありがとうございます。有村先生、朝食についてお願いします。

有村 服部先生のお話の裏づけが文部科学省より出ています。私の手元に国立教育政策研究所が平成十六年に出した、試験と生活習慣の関連を調べたデータがあります。

勉強が好きだという子と、勉強が嫌いだという子の成績を比べると当然ながら好きな子の方が平均点は断然高い。しかしその勾配よりも朝食を必ず取るという子と、取らない子の平均点の違いの方が高い勾配を示しました。

ですから勉強が好きか嫌いかというより、朝食を食べるといふ基本的な習慣が身についているかどうかの方が学校の成績を変えることを文部科学省も認めました。そして、学校に持っていく物をちゃ

んと確かめますかという調査で、確かめるといふ子は成績が高く、調べない子は成績も低いのですが、これも朝食を調べた勾配の方が、はるかに平均点が違ってきます。平成十五年に調査した最も新しい結果です。

政府文部科学省は「早寝・早起・朝御飯」ということで平成十八年度2億5000万円の新規予算の計上をしました。それには一方で欠食している子供たちが三割以上いるという現実がある。日本の教育を少しでも改善したい、子供たちの食を守りたいという決意の表れです。

忙しい現代人が朝食を摂るために一つの知恵だなど思うのは、具がたくさんの汁を家族全体が食べることです。

石川 ありがとうございます。富田先生、お医者様の立場から。

富田 現代人は食の内容を大事にして、食べ方を軽視しがちです。お父さんは朝早くから夜遅くまで働き子供は塾に行く。働いているお母さんもいる。なかなか一家そろって御飯を食べる団欒時間がありません。朝だけでも家族一緒に食べてください。拒食症や過食症の食に問題がある子供だけではなく、不登校の相談の方にもまず朝御飯と一緒に食べるように言います。朝御飯は家族で時間調整を

して、たとえコーヒー一杯でもいいから一緒に団欒をする。

五感を満足させながら食事をする。よく食事でもしましょうといいますが、これは食の感覚を味わう中で人間関係ができるのです。一番大切な人間関係は家族です。その家族がバラバラになってきている。だから朝食と一緒に食べましょうということを私は言っています。

服部 今の世の中、何でも手づくりとは言いません。たとえ調理加工食品でもチンでも結構です。しかし本心に愛情が家族にあるなら、一汁一菜ぐらいできないはないと思います。

旬の白菜や大根が甘くて美味しいのはなぜかという、霜が降りると植物の細胞がやられます。そこで彼らはこりや大変だと糖質を増やし、おのずと甘くなります。ビタミンの原料は糖質なので、旬はビタミンが五〜六倍になります。知っておけばずいぶん違います。

病院食は美味しいでしょうか。小児科と産婦人科は美味しいですね。私は今、北海道で病院食のランキングづけをやっています。病院食がペットフードに見えるのは蛍光灯の照明なのです。蛍光灯は赤い色を不味く見せ、病人の青い顔は今にも死にそうに見せる。蝋燭をともししてお食事を見て下さい。白熱球でも結構です。病気の方には食欲を出させてあ

げることが大切です。体力がないのに薬ばかり飲んででも仕方がない。食事に雰囲気をつくってあげてください。いいかおりがして見た目が綺麗だと嗅覚や視覚を刺激します。いい音楽やジュウジュウものが焼けている音が聞こえると脳を刺激します。するとセロトニンという脳内物質がザッと出てよだれが出てくる。うなぎの蒲焼の匂いのあの状態です。

コーチゾールという副腎皮質ホルモンを抑えると免疫機能が上がります。アメリカで実験をして、入院日数を三週間から二週間に縮めることができたのです。これは本当にすごい効果です。病院を含め社会に食育が必要なのはここでも判ります。

石川 最後に参考にして欲しいということ、言えなかったこと等をお願いします。

富田 食を通じての家庭教育というものは大事です。食というのは文化ですからこれを大事にしたい。いずれにしても今



富田和巳氏

の日本は伝統的なものをどうも蔑視する傾向があるようです。「古きを学んで新しき知る」という形で、原点に帰ることをしなくてはなりません。私たちは子供教育をもっと家庭ですべきです。六歳迄の家庭教育でする食育を学校教育でする時代になっている。それも大学でやっているのです。家庭できちんと教育をしさえすれば、後は少々のがあっても大丈夫なのです。それができないという時代を私たちは真剣に考えなくてはいい。回顧主義ではありませんが、日本人が本来持っているよさにこれからはもっと自信を持って欲しいと思います。

石川 ありがとうございます。服部先生。

服部 私は規範意識の調査で各国へ行きましたが、日本のように教育を満遍なく受けている国は他にありません。そういう意味で日本は凄いですよ。だから日本はこの教育システムをうまく使って食育をやっていく必要があるだろう。食育の、食をつくる人間力がやはりいいかなと思います。

石川 ありがとうございます。では有村先生、最後によりしくお願いします。

有村 私は文部科学省で愕然としたことがあります。全国の教育委員会は小中高



有村治子氏

ブグループの中にいます。しかし自分の言葉で考えをはっきり示す力は他国に劣っている。つまりこれは、大変な問題に直面したら、時間が掛かるから逃げなさいという価値観を教えてしまったということなんです。下手でも、問題を直視して、それに立ち向かう子をきちんと褒めるといふ物差しを伝えていかなければならないと思っています。

最後になりました。日本の保守、神道の精神を国政に、あるいは日本の心を政策にという大前提に立ち、第一線で活躍の神道政治連盟、敬神婦人会の皆様、健全な精神を育てていく上で、食育は原点であるという共通の思いを私も持つております。日本には数え年という、まだ目には見えないけれどもしっかりと魂が宿った新しい命に対しての敬意と、それを認め、迎える価値観があります。目に見えなくても確実に存在するものに対しての畏敬の念、尊重の念を一番実践されているのは、神社の関係の方だと思います。それは神様に二礼二拍手をする私たち民族の大事な心の部分だろうと思います。

人間の命の尊厳と家族のきずなと、国家の尊厳を最も大切にしている皆様とともに、これから家族をつくっていくこととする多くの若い世代に日本のよさを伝えて行きたいと思っています。願わくは、この知恵と精神を全国へ伝えるため、このフォーラムを展開していきたいと思っております。

12月 師走

- 12月1日 ・洛西支部神宮大麻暦頒布始祭並びに総代会総会 林本部長出席 〈於 松尾大社〉
- 12月7日 ・京都府本部創立35周年記念式典・祝宴 〈於 ホテルグランヴィア京都〉
- ” ・心の教育・女性フォーラム 第5回教育シンポジウム 〈於 ホテルグランヴィア京都〉
- ” ・清政39号（特別号）発行
- 12月12日 ・神政連兵庫本部創立35周年記念式典 林本部長・中嶋事務局長出席 〈於 生田神社会館〉
- ” ・京都府神社総代会上支部総会 林本部長出席 〈於 糸源〉
- 12月23日 ・天長節奉祝日本会議・京都式典 関係者出席 〈於 八坂神社常磐新殿〉
- 12月24日 ・京都府本部役員会 林本部長以下関係者出席 〈於 北野天満宮〉

1月 睦月

- 1月12日～13日 ・拙速な皇室典範改正を阻止する陳情活動 林本部長以下副本部長・幹事長・事務局長出席 〈於 京都府選出衆参両議院事務所〉
- 1月19日 ・拙速な皇室典範改正を阻止する決起集会 林本部長以下関係者出席 〈於 憲政記念館〉
- 1月20日 ・京都府神社庁新年神職総会関係団体助成金交付式 林本部長出席 〈於 京都府神社会館〉
- 1月29日 ・皇室典範改悪阻止 京都国民総決起集会 林本部長以下関係者出席 〈於 キャンパスプラザ京都〉
- 1月31日 ・神政連中央本部役員会 林本部長出席 〈於 神社本庁〉

2月 如月

- 2月1日 ・皇室典範の拙速な改定に反対する緊急集会 三井事務局員 〈於 憲政記念館〉
- 2月10日 ・拙速な皇室典範改正を阻止する陳情活動 林本部長事務局長 〈於 自由民主党京都議員事務所〉
- 2月11日 ・建国記念の日奉祝京都式典 関係者出席 〈於 京都府神社会館〉
- 2月18日 ・府議皇室典範勉強会 林本部長・堀川副幹事長出席 〈於 京都テルサ〉
- 2月27日 ・京都の菓を語る女性の会会議 提言者以下関係者出席 〈於 北野天満宮〉

3月 弥生

- 3月7日 ・皇室の伝統を守る1万人大会 中嶋事務局長他出席 〈於 日本武道館〉
- 3月8日 ・京都府知事選挙山田啓二候補推薦書送付 林本部長出席 〈於 活力ある京都をつくる会事務所〉
- 3月11日 ・職域支部長・参議院比例代表候補者支援団体合同会議 林本部長出席 〈於 自由民主党京都府連〉
- ” ・活力ある京都をつくる会事務所開き 林本部長出席 〈於 活力ある京都をつくる会事務所〉
- 3月12日 ・皇室典範の拙速な改定に反対する関西大会 林本部長以下関係者出席 〈於 エルおおさかホール〉
- ” ・日本会議・京都運営委員会及び研修会 林本部長以下関係者出席 〈於 京都府神社会館〉
- 3月26日 ・靖国神社参拝 京都府出身戦没者慰霊祭 田中顧問・林本部長以下35名者出席 〈於 靖国神社〉
- 3月29日 ・京都府神社総代会総会 林本部長出席 〈於 ホテルグランヴィア京都〉
- 3月31日 ・神政連政策委員会 林本部長出席 〈於 神社本庁〉

4月 卯月

- 4月5日 ・山田啓二選挙電話応援 林本部長・山田会計代行・林会員出席 〈於 自民党京都府連〉
- ” ・三役会会議 正副本部長・幹事長・事務局長・会計責任者出席 〈於 京都府神社会館〉
- 4月6日 ・京都府知事選挙決起集会 梶幹事長以下関係者出席 〈於 リーガロイヤルホテル京都〉
- 4月8日 ・京都府知事選挙街頭統一活動 竹内副本部長以下関係者出席 〈於 四条河原町〉
- 4月9日 ・京都府知事選挙 山田啓二氏当選
- 4月13日 ・神政連中央本部役員会 林本部長出席 〈於 神社本庁〉
- 4月26日 ・英霊にこたえる会京都府本部運営委員会 梶幹事長出席 〈於 京都福祉会館〉

5月 皐月

- 5月7日 ・京都府神社総代会洛東支部総会 林本部長出席 〈於 魚善〉
- 5月19日 ・綱紀委員会会議 林本部長以下関係者出席 〈於 京都府神社会館〉
- ” ・京都府本部役員会 林本部長以下関係者出席 〈於 京都府神社会館〉
- 5月25日 ・英霊にこたえる会京都本部総会 林本部長・三井事務局員出席 〈於 京都雲山護国神社〉
- 5月30日 ・組織・財務委員会合同会議 林本部長以下関係者出席 〈於 京都府神社会館〉
- ” ・京都府本部役員会 林本部長以下関係者出席 〈於 京都府神社会館〉

6月 水無月

- 6月8日 ・神政連中央本部本部長会 林本部長・中嶋事務局長出席 〈於 神社本庁〉
- 6月9日 ・神政連中央本部中央委員会 林本部長・竹内副本部長・吉田副本部長・梶幹事長・中嶋事務局長出席 〈於 神社本庁〉
- ” ・神政連中央本部事務局会議 中嶋事務局長出席 〈於 神社本庁〉
- 6月19日 ・京都府本部代議員会開催 〈於 京都センチュリーホテル〉
- ” ・第20回会員大会開催 〈於 京都センチュリーホテル〉
- ” ・清政第40号発行

御歌を拝して

父祖ふその地と君がのらしし京きやうの地に
しだけ桜さくらの幼木こゝろを植つ

平成三年五月二十六日に宇治市で行われた第四十二回全国植樹祭で、京都府の花であるしだけ桜をお手植えになったことを詠まれた皇后陛下の御歌です。それから十五年、「ふれあいの森」では、大きく育った桜を愛でながらお花見を楽しむ家族の姿が見られました。さて御歌から、天皇陛下が、京都に対し、「父祖の地」と、特別の思いをお持ちでいらつしやる様子が拝されます。

平成六年十一月八日に国立京都国際会館で行われた「平安建都千二百年記念式典」では、「京都は千二百年前に、平安京として創建された都であり、父祖の地として、懐かしくしのばれるところであります。建都以来、京都は常に新しい文化を取り入れ、それを育み、伝統として伝えていくとともに、さらに、新しい文化を生み出していきます。・・・京都は三方を山に囲まれ、市内に社や寺々の森がここかしこあり、人々の心にやすらぎを与える、緑豊かな都市でもあります。・・・現代に生きる私どもにとり、過去に残された文化への理解を深め、文化遺産を守るとともに、当時の文化を生み出した人々の、生き生きとした精神を引き継いでいくことが、重要なことと思われ

●「心」の教育基本法を

ここ数年、幼い子供が巻き込まれ、大切な小さな命を失うという事件が多発している。

かつてのそういう事件は、憎しみであったり、金銭目的の誘拐であるなど、犯罪の動機が明らかであった。

しかし最近の事件の多くは、猥褻をはじめとする犯人が自らの欲求を満たすために、自分より力が弱く抵抗できない子供を狙う、自己中心的な犯行であり、それで実を結ぶものは何もない破滅的な行為である。

これらの犯罪の根本原因は、親の養育や学校の教育が、精神的な大人を育む機能を失っていることにある。それに加え、仮想世界で人を傷つけ殺し合うことに躊躇しないテレビ番組やゲームが台頭し、異常犯罪に拍車をかけている。

いま議論されている教育基本法の改正は、まさにこのような現状を踏まえて、心の教育の部分に踏み込み、精神形成の基となる背骨の通ったものでなければならない。

●ご意見ご感想をお待ちしています。

投稿はご氏名ご連絡先を明記の上、FAXか電子メールでお願いします。

宛先／神道政治連盟京都府本部
「清政」編集室

ファックス／075-863-6664
電子メール/
info@kyoto-jinjacho.or.jp



このロゴマークは、わたくしたちの会名である「神道政治連盟」の英訳の頭文字SAS (Shinto Association of Spiritual Leadership) と日本古来の装飾品である勾玉(マガタマ)をデザイン化したものです。

清政 第40号

発行日 平成18年6月19日(月)
発行所 神道政治連盟京都府本部
〒616-0022 京都市西京区
嵐山朝月町68-8
電話 075-863-6677

神政連ホームページを
ぜひご覧ください。
<http://www.sinseiren.org>

編集協力 (株)ハルプロモーション



シンポジスト紹介



服部幸應氏 (学)服部学園理事長・校長／医学博士

昭和20年生まれ 東京都出身
立教大学卒業。(社)全国調理師養成施設協会会長をはじめ、中央省庁の「食」「環境」の研究会委員も勤める。その活躍は広く認められ、藍綬褒賞、仏国大統領より国家功労勲章及び農事功労勲章受賞など、国内外より多数の表彰を受ける。また、TV朝日「愛のエプロン」などに出演する他、「食育のすすめ」、「大人の食育」など著書も多数出版。「食育」等料理を通じた生活習慣病や地球環境保護を掲げ、「健康と食」に関する講演やホテル・レストラン・病院・旅館対象の経営や献立作成等の企画・提言をしている。



富田和巳氏 こども心身医療研究所長

昭和16年生まれ 和歌山県出身
和歌山県立医科大学卒業。大阪大学医学部小児科入局後、吹田市市民病院、パラグアイ日本人移住地の診察所、大阪府自閉症児施設松心園を経て、社団法人大阪総合医学・教育研究会を設立、現在理事長。同附属こども心身医療研究所・診察所所長。大阪大学非常勤講師、日本小児心身医学会理事長。専門は小児心身症。



神道政治連盟国会議員懇談会副幹事長
有村治子氏 文部科学大臣政務官・参議院議員

昭和45年生まれ 滋賀県出身
アメリカバーモント州SIT大学院修士課程修了。日本マクドナルド(株)本社人事部能力開発促進部勤務の後、青山学院大学博士課程に進学し、国際経営学を研究。平成13年、参議院議員自民党比例(全国)区で初当選。現在、神道政治連盟国会議員懇談会副幹事長、文部科学大臣政務官、党教育基本法検討特命委員会幹事等を務める。

コーディネーター紹介



石川水穂氏 産経新聞論説委員

昭和22年生まれ 三重県出身
東京大学法学部卒業。産経新聞社に入社し、前橋支局、社会部、特集部などを経て平成3年から社会部編集委員。9年から論説委員兼務。主として教育問題に携わり、歴史教科書問題や慰安婦問題、大学改革、靖国問題、拉致問題などのテーマに取り組む。共著に「大学を問う」(新潮社)、「教育再興」(扶桑社)